

2025 年度 学校関係者評価委員会報告書

学校御関係者評価委員会(自己点検・自己評価)を行いました。その結果を下記のとおりに報告します。

1. 日 時 : 2025 年 7 月 25 日(金)19:00~20:10
場 所 : 会議室
2. 出席者 : 評価委員……九州大谷短期大学 客員教授(学識経験者)
九州保健福祉大学 非常勤講師(学識経験者)
筑後市立病院 看護部長(企業等委員:専門分野関係者)
学生保護者(PTA:看護科学生保護者)
筑水会病院 看護師(卒業生:同窓会役員)

職員 ………・医師会長・学校長
医師会副会長・学校担当理事
副学校長
准看護科教務主任
看護科教務主任
事務長
事務次長(進行)

3. 議題

- 1) 八女筑後看護専門学校 自己点検・自己評価について(副学校長)
これまでの取り組みの経緯について
・准看護科、看護科の自己点検自己評価結果は、ホームページにて公表。
- 2) 2024 年度学生状況について(准看護科・看護科)(副学校長)
- 3) 2024 年度准看護科評価結果について(准看護科 教務主任)
○ホームページにて公表
- 4) 2025 年度准看護科重点課題について(准看護科 教務主任)
○ホームページにて公表
- 5) 2024 年度看護科評価結果について(看護科 教務主任)
○ホームページにて公表
- 6) 2025 年度看護科重点課題について(看護科 教務主任)
○ホームページにて公表

7) 意見交換・質疑応答

(学校) これ迄の委員会で、委員の方からのご意見で改善してきた点があることを紹介。例えば、実習衣のデザインを変更し、准看護科から看護科まで4年間使用できるようにした。またSNSを活用し、Instagramでの配信を開始した。学生数が減ったこともあり、准看護科・看護科が同じ校舎で学び、学生間の交流を深めている。

(委員) この学校の歴史や看護を目指す人は一般的に4年制の看護大学に行く方が多いのか、また社会人の受験(子育てしながら看護の資格取得を目指す)も多いのか。

(学校) 本校は1970年に准看護科を開校し55年目を迎えている。昔は学生も多かったが、近年看護大学が増えていることで、高校生(新卒者)の入学は減少している。
大学が全入時代となり、高校側も大学への進学を勧める傾向にあるようだ。社会人が減っているため対策が必要。

(委員) 本校と自校の課題が似ている。保育士が足りていないのに入学生が集まらず経営が厳しい。
この専門学校は存続の意義があると思う。大学には進学できないが、看護師を目指す人への受け皿となっていると思う。
講義をする中で、自分に大きな影響をもたらした人を書いてもらった時に、准看護科・看護科の先生や担任の先生に支えられて今があるという生徒がいた。

(学校) 高校の先生の話を見ると看護職の希望者の割合は減少してはいないが、全体の生徒数として高校も定員割れとなっている所もあるようだ。

(委員) 大学との経費の違いは大きいと思う。経済的に厳しい学生は専門学校を選ぶと思われる。

(学校) 社会人(特に子育てしながらの)へのアプローチを強化していこうと、先日保育園の保護者会に於いて、本校をアピールする機会を頂いた。看護職に対して敷居が高いと思われているのではないかと感じ、門徒を広げる為「入りやすくなっている」と伝えた。

(委員) 本校で講義をする中で、この学校の先生方を見てきて、あたたかい学校だと感じている。

定員充足率を増やすことが一番の課題のようだが、経済的支援を行い社会人入学者を増やし、地域に根差した学校として存続して頂きたい。

先ほどの保育園の訪問も、実際子育てをしながら頑張っている学生を同行しPRするのも良いのではないかな。

(委員) 私はこの学校で4歳と1歳半の子育てをしながら入学し、准看護科から看護科へ進学し今看護師として勤務している。

子育てしながらでも卒業できるということを伝えていきたいと思う。

(学校) オープンキャンパス時に、卒業生からのビデオメッセージとして、子育てしながら入学して、卒業した学生や、本校准看護科から看護科へ進学した学生、他校准看護科から本校看護科へ進学した学生等、様々な状況だった学生の話視聴してもらっている。

(委員) 自校のオープンキャンパスで取り入れていることを紹介された。

今の子は楽しいことが好きなので、学生が考えたことだが、先生方の写真の缶バッジやティッシュ箱などを作成したり、一緒に物作りをするなど楽しい内容で人を集めることが一番だと思う。

(学校) 学生のアンケート結果を見て頂くとわかるように、「教員のサポート・近づきやすい存在」が低い。ここは捉え方が難しく、学生との距離間が近すぎてもいけないし、看護師としての姿勢を育てるには多少厳しくしなければいけないこともあると思う。

(委員) 実習場所で、どれだけ先生方が対応されているかが大事なのではないかな。いつでも先生が近くにいるとわかると、学生も安心すると思う。

(学校) 教員は毎日実習場に行っている。以前に比べ学生の要求度が高くなっているのか。

(委員) 先生方は十分近づきやすいと思う。

(学校) 自分たちは話しかけているつもりだが、学生の心に届くには何が足りないのか分からない。

(委員) 学生は先生の顔を見るだけで安心すると思う。

(学校) 指導者からは「何もしなくてよいから、学生のために実習場に来てください」とよく言われる。実習場と学内では緊張感も違うので、実習指導と学内での関りは変えている所がある。もっと距離感が近い関係を求めているのか。状況によってメリハリも必要だと思うが、今の若者が求めるもの、価値観の違いを感じる。

(学校) アンケートを取る文言が「近づきやすい」という表現を変えた方がよいのか。「頼れる存在」など今後検討する必要があると考える。

(学校) 学生(本人)たちの意見なので、教育の内容は影響されなくて良いと思う。近年、本校の学生状況も変化してきているが、一般的に今の子どもたちは周囲に流されやすい、対面で話をするのが苦手な子、SNSなどが中心でしゃべらない子が増えてきていると言われている。

(委員) 21 世紀型の子どもの弊害。
これまでルールが敷かれてきている為、自分で考える力が弱い。
今は、子ども達が何をしたいのか主体性を育む教育になってきている。

(学校) ゆとり教育は決して否定しない。しかし低学年の時にはある程度のおしつけ教育が必要な時もある。

2024 年度第 2 回学校評価委員会（将来構想委員会）報告書

日 時：2024 年 11 月 29 日（金）18：30～19：45

場 所：会議室

出席者：医師会…会長・副会長・事務長

学校……副学校長・両科教務主任・事務次長（進行）

外部……公立八女総合病院看護部長・姫野病院看護部長

福島高等学校長・八女学院中学・高等学校進路指導部長

※欠席：筑後市立病院院長

1.開会（18：30）

2.委員長挨拶（医師会長）

3.委員紹介（自己紹介）

4.議題

1) 看護基礎教育の現状と本校の課題・本校各科の学生状況について

- ・委員会設置趣旨・我が国の看護教育の動向について（副学校長）
- ・本校の学生動向について（両科教務主任）
- ・学生確保に向けた対策について（副学校長）

2) 意見交換 ※敬称略

（進行） 資料に沿って説明が終了。この地域での看護職養成施設として改善点など参考にさせて頂きたいので、先生方から忌憚のない意見を頂きたい。今後の学生の動向などについてお話をお聞かせいただきたい。

（委員） 看護学部へのエントリーは 21 名、内大学進学 19 名、専門学校進学 2 名（2 名とも福岡市）。

また、スポーツ特待の学生が多く、理学療法士を目指す学生が 6 名、内大学 5 名、専門学校 1 名。大学が増え入りやすくなっている。

（委員） 看護学部への進学希望者は 9 名、内大学 3 名、専門学校 6 名。

高校の定員が減少しており、定員割れをしている科もある。

人間関係に悩む学生も多く、1 年生の初めは縦の繋がりを意識して一緒にゲームなどを行い、上級生の成長の過程を見せるようにしている。

特に 1 年生は行事を多く取り入れ、人間関係作りに力を入れている。

(委員) 今の子どもたちは「早く大学を決めたい」「早く高校を決めたい」
特色化選抜(AO)を受験する生徒が多く、3月の一般入学試験を受験する
生徒は少なくなっている。
早く進路が決まった生徒に対して指導が必要だと感じる。
高校から中学校に出向き、入学前学習課題での指導を行っている。

(学校) 高校も定員が減少している中で、看護師を目指す生徒が減っている。

(委員) そうではないと考える。医療関係(看護職)の志望者数に変化はない。

(学校) 大学卒業の看護師と専門学校卒業の看護師の違いはあるのか。

(委員) 専門学校の卒業生の方が急性期などでも柔軟に対応できる。

(委員) 差は感じない。専門学校間の差は感じる。八女卒は成長過程が早いように
感じる。中にはゆっくりの学校もある。

(委員) 実習になると体調不良になる学生がいるようだが、何が原因なのか教えて
ほしい。

(学校) 看護科は看護過程の展開力が求められるため、初期計画発表前になると体
調不良で欠席の連絡が入ることが多い。
学内の学習力が身につけている学生であっても思うように書けず、記録面
での躓きが影響していると思われる。

(学校) 自分に対し出来る感が高く、実際実習に行ったらできないギャップに悩み、
指導を受け入れられずに行けなくなる。

(委員) 縦の繋がりががあると先輩から助言を受けられるのでは？

(学校) 問題解決に繋がる為の情報ではなく、指導者や教員の指導方法等を先輩が
伝達しているのか？ 本来なら事前学習やどうしたら上手く実習で学べる
のかという伝達をしてほしいと思う。

(学校) 自分の出来ていないところを指導されるので、指導されると自分を全否定されたようにとらえる。

助言したことを否定された、怒られたと捉える学生がいる。

実際患者を目の前にすると臨床現場の厳しさを目の当たりにする。

看護者になる覚悟が不十分のまま目指してきている。指導をしていると本当はなりたくなかったということがある。

(委員) 実習受け入れ先で記録の指導等もできればと思う。情報共有をしていきたい。1年目はとくにしっかり関わっていけると2年目に繋がるので、サポートしていきたい。

(学校) どうしても2年生は実習や国試対策などで教員の関わる時間が多くなり、1年生への対応が少なくなっている。もっと1年生への関わりを増やしていくことを意識していく必要がある。

(委員) 実習を受け入れる側にもできることを教えて頂けたらと思う。
学校から臨床へと繋いでもらったらいと思う。

(学校) 今のご意見非常にありがたい。1年生への手厚いケアが大事。
夏休みがターニングポイントになっていく。意欲を持たせタイミングが遅れないようにしていきたい。

(委員) 部活に所属している生徒は団結力を学ぶので、辞めることがない。ゴールデンウィークなどに勉強合宿を行っているのも一つの対策である。

(委員) 声掛けにはものすごく気を使っている。「叱咤激励」は通用しない。
ダメなことはダメというが、ほめて伸ばす関わりを意識して実行中。
カウンセリングはどのように行われているか？

(学校) カウンセリングを1名(委託)ホームページから個人で申し込みが出来るシステムを作っているが利用には繋がっていない。

(委員) 本校は保護者や職員が課題のある学生への対応について、カウンセリングを受けている。

(委員) カウンセラーは引っ張りだこ。生徒たちをカウンセリングに保健室の先生が繋いでいる状況にある。

(委員) 窓口は広いが、壁がある。「叱咤激励」は難しい。

(委員) 高校でも、保護者や生徒が直接「県の関係機関」に電話をかける。

(学校) 自分の存在感を示し、それを受け入れられたことで満足する。そのために直接県に電話をかける。保護者を呼び出し話を聞くことをする。

(委員) 高校での経験が乏しいことで、学生がその先に迷惑をかけることになる。もっと指導していきたい。

夜間定時制の生徒が年々増加している。

学費の面で悩んでいる。奨学金を受けても先が見えず足踏みしている。

(学校) 地元での医療職が少ない。定員は 40 名だが、既に定員割れが続いており、1 桁になったら非常に厳しい。

継続していくには入学してくる学生が必要。今は暫く頑張っていきたい。

・今後に向けて

(学校) 学校経営が厳しくなる一方だが、学生のモチベーションを上げ、厳しい状況でも入学の間口を広げて、しっかりと教育し、時には時間をかけてでも質の高い看護師を輩出する必要がある。

(進行) 本日は貴重なご意見をありがとうございました。

本日のご意見を参考に今後の状況をみながら学生募集、運営、学生指導に繋げていきたいと思う。今後ともご指導ご協力をお願い致します。

5. 閉会の挨拶

(学校) これからの状況を見ながら、本校の在り方を見直し、オープンキャンパス、学生募集に力を注いでいきたい。

教職員も頑張っている。先生方のお力添えを宜しく願いたい。